

エネルギー政策に関する意見箱

1. 氏名	小川 修夫
2. 年齢	
3. 性別	
4. 連絡先	住所 : 電話番号 : FAX番号 : メールアドレス :
5. 意見及びその理由	<p>意見： 太陽光や風力を含む再生可能エネルギーは、クリーンで人に優しいエネルギーとして大いに期待したいところであるが、その特質上大きな制約が存在する。従って、我が国の長期的な主力電源として位置付けるには無理がある。</p> <p>一方、これまでも基幹エネルギーとされてきた原子力発電は東電福島事故を乗り越えて安全性の一層の向上が図られてきており、その期待は今後とも変わるものではなく、日本の繁栄と子孫の幸福を確実なものとするためにその利用推進を図るべきである。</p> <p>理由；</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 再生可能エネルギーでも安定電源とされる水力、地熱の発電方式は、開発し尽され大規模開発の余地も少なく、またバイオマスも実用化途上で共に基幹電源とはなりえない。 2. 一方、現在期待がかけられ大規模な導入が図られている太陽光、風力は天候に左右されるという不安定な電源であるため、その大量導入には電力の安定供給の観点から自ずと導入規模に制限があり大幅には増やせない。その上、低密度の発電方式でその発電コストは高く固定価格買取制度 FIT あつての経済性でもあり、国民にその負担が賦課金として大きくなるしかかっている。 3. 太陽光、風力は電力需要の変動に応じられない電源であるため、他の安定電源を必要とし現状では火力発電がその役割を担っている。その結果温室効果ガスの発生のない筈の太陽光、風力を導入しても火力による発電補充で温室効果ガスの発生は低減していない。この実態は再生可能エネルギーを大量導入しているドイツの実情を見ても明らかである。 4. 適切な規模の再生可能エネルギーを今後とも導入することは重要かつ必要であるが、それを補完するには温室効果ガスの発生のない経済性の高い基幹電源としての原子力発電の導入が不可欠である。

5. 原子力は事故を起こす、放射能は怖いという国民感情は理解できなくもないが、原子力事故を未然に防止し、放射能を十分に防護する技術力と聡明な叡智を日本人は持っている筈であるし、フランス人が言うように「アラブの油に頼るより、自国の進んだ科学技術を信頼したい、だから原子力を推進する」といえないものだろうか。
6. 我が国では、資源の有効利用の視点から、発生した使用済み燃料は再処理して核燃料の再利用をするという方針で進んでいる。当面の MOX 燃料の軽水炉利用、将来の高速炉利用で長期間に亘るエネルギー確保が可能となる。使用済み燃料の直接処分に比した再処理の発電コストへの影響はごく僅かの上昇でしかない。
7. 再処理に伴い発生する高レベル放射性廃棄物はガラス体に溶かして安定処理し、ガラス固化体として安定な深い地層に安全に埋設する。日本列島にはガラス固化体の地層処分に適した場所が多くある。
8. 我が国の産業基盤の維持のために原子力産業の発展はゆるがせにできない。原子力発電設備の研究開発、設計、建設、運転保守等の経験喪失は原子力産業技術の停滞につながる。原子力産業技術の停滞は日本の先進技術の退化に至る。このままいけば日本の原子力産業は、韓国、中国、ロシア等の産業技術に席卷され、日本の将来はそれらの国々から原発を輸入することにならないか。

以上